

タイトル：2023 年度 教育セミナー（第 19 回）

日時：2023 年 9 月 21 日（木）～24 日（日）

場所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3 階大会議室（303）

佐藤 有香（早稲田大学大学院）

大学の中東・イスラーム研究コース室に置かれていたフライヤーにて、中東☆イスラーム教育セミナーの開催を知り、セミナー名に☆が入っていることに興味を覚えつつ、長い夏休みにおいて研究のモチベーション維持になるのではと思い、参加することを決めました。

今年はセミナーへの参加者、さらには発表者も多く、とても刺激的な 4 日間となりました。普段は自身の専門である歴史学の発表を聞くことが多いため、多様な専門をもつ受講生の発表はどれも興味深かったです。セミナー初日は臆してしまい中々質問ができなかったのですが、段々と積極的に発言できるようになり、研究目的や研究の意義をどのように定義するかについてより理解を深めることができたように考えます。

そして先生方の講義からは、普段の学会発表ではお聞きすることができない、これまでの経験に基づく研究に対する姿勢を伺うことができました。特に印象的だったのは、国際保健学がご専門の藤屋リカ先生による、パレスチナに関する講義です。研究者兼 NGO の活動者として双方の顔を持つ、先生ならではのお話で、研究を社会に還元する（という表現が適切かは不安が残りますが）姿勢に、大変感銘を受けました。また、とある先生からは、今後は歴史学だからといって過去のことにのみ留まるのではなく、今の社会につなげるという意識を持つことについてのお話を伺い、このことも自身で咀嚼しながら、研究に取り組みたいと思いました。（また本セミナーとは直接関係はないですが、この感想を書いている現在 10 月中旬、イスラエルとハマスの衝突が続き、ガザ地区が人道的危機に瀕しています。一刻も早く停戦し、少しでも多くの人の命が守られることを祈っています。）

また本セミナーで、私はポスター発表の機会を頂きました。ポスター発表という形式について、私はコアタイムがあるといった知識しかなかったのですが、せっかくセミナーに参加するならと思い、発表することにいたしました。ポスター発表経験者の方にアドバイスを頂きポスターを作成しましたが、図をもう少し入れるなどポスター発表ならではの工夫ができればよかったと思います。ただ、ポスター作成の経験からはとても学ぶことが多く、大学院でのゼミの発表の際にも、レジюмеに効果的に図や表を挿入するなど工夫をするようになりました。今後セミナーに参加される方で、受講生発表はちょっと…と思われる方は、ぜひポスター発表を検討されると良いと思いました。

4 日間を振り返ると、毎日密度の高いプログラムが用意されており、大学院生となってから最も濃い 4 日間であったようにさえ感じます。自身の専門と近い学生とも交流でき、様々な情報交換の場となりました。

末筆ながら、中東☆イスラーム教育セミナーを開催、運営していただいた AA 研の皆様、

また本セミナーで講義いただいた講師の先生方、会うことのできた大学院生の皆様にお礼を申し上げます。